

藤田浩子の 少し昔のこと 〈68〉

冬至

私の育った家庭は、比較的行事を大事にする家庭でした。昔だって、暮れやお正月になにもしない家があったと思いますが、私の父は長男だったからでしょうか、家の行事は継承しなければと思っていました。それと、父がシロウトながら俳句をたしなんでいたこともあるかもしれません。とにかく季節季節の行事はやるほうだったと思います。

冬至の日には、いとこ煮という、カボチャと小豆の煮たものを食べました。私はカボチャと小豆だけのいとこ煮しか知りませんが、地方によっては野菜をいろいろ入れるいとこ煮もあるようです。いろいろな野菜を入れるときに堅いものから追い追い(甥甥)いれるので、甥と甥で従兄弟だという人もいますが、私はカボチャと小豆は兄弟ほどは似ていない、まあ両方甘いという意味



で似ているいとこ程度の関係なのだ聞いてきました。いわれはいつでもおいしければいいのです。

あずきはいつでも甘いのですが、カボチャは当たり外れがあって、水っぽいかぼちゃだとおいしくありません。でもおいしくてもおいしくなくても、冬至にはいとこ煮を食べました。これを食べると風邪を引かないといわれていました。

風邪を引かないためには「ン」のつくものを食べるとも言われました。ミカン、キンカン、レンコン、ダイコン、ニンジン、コンブ、などですが、甘党の私はそれだけでなく、ダンゴにアンコも加えています。

今年の冬至は12月21日ですが、昼が一番短い日です。冬至が過ぎると、暈の目ひと目ずつ陽が伸びてゆくとされていますね。冬至の翌日から太陽が新しくなるとも言われ、太陽の誕生日としている国もあるとか。クリスマスなんかもそうなのかな。

リレー連載 <201>

わたしの大好きな絵本

野々垣響子

『こんとあき』作：林 明子
福音館書店

子どもの頃に母に読んでもらった中で、1番記憶に残っているのは『こんとあき』です。ぬいぐるみの“こん”と、女の子の“あき”の小さな冒険のお話です。6歳の息子と4歳の娘にも、何度か読みましたが残念ながら反応はイマイチ…。そんな息子は、今、宇宙図鑑と昆虫図鑑に夢中!!「宇宙や虫には僕達が知らない世界がいっぱいあるんだよ!!」とっています。ただ、図鑑を音読させられるので毎回本当に大変です。

娘は『ぐるんぱのようちえん』という絵本が大好きで、いつも声が枯れるほど繰り返し読まされています(^_^;)お話の最後に出てくる幼稚園に私も行きたいなあーと可愛い感想を言ってくれます。

一緒に絵本を読めるのも、きっとあと少し。子ども達の感想に成長とトキメキを感じられるこの時間を楽しみながら、たくさんの本を読んであげたいと思います。

